

安全データシート



Liquid X

1. 化学物質等及び会社情報

薬品名 : Liquid X
製品コード : データなし。
製品タイプ : エアゾール。
製造業者 : Pedro's Incorporated
 600 Research Drive
 Wilmington, Massachusetts 01887
緊急連絡用電話番号(受付時間) : CHEMTREC International: (703) 527-3887
 24/7

化学製品の推奨される用途

用途	産業カテゴリー	用途カテゴリー	用途サブカテゴリー	ファンクション カテゴリー
----	---------	---------	-----------	---------------

自転車用潤滑剤。

使用制限あり

用途	産業カテゴリー	用途カテゴリー	用途サブカテゴリー	ファンクション カテゴリー
----	---------	---------	-----------	---------------

一致するものはない。

2. 危険有害性の要約

物質または混合物の分類 : 可燃性／引火性エアゾール - 区分 1
 皮膚腐食性／刺激性 - 区分 2
 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 - 区分 2B
 特定標的臓器／全身毒性(単回暴露) 気道 - 区分 2

GHSラベル要素

注意喚起語 : 危険
危険有害性情報 : 極めて可燃性／引火性の高いエアゾール。
 皮膚刺激。
 眼刺激。
 吸入すると臓器障害を引き起こすおそれ。(気道)

注意書き

防止 : 使用前にラベルを読むこと。保護手袋を着用すること。保護眼鏡／保護面を着用すること。熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／材料取扱機器を使用すること。火災を発生しない工具を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。容器を密閉しておくこと。加圧容器: 使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。子供の手の届かないように保管すること。蒸気を吸入しないこと。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。取扱い後はよく洗うこと。医師の診断が必要な場合: 製品容器またはラベルを手元に用意すること。

対応 : 皮膚(または毛)にかかった場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと／取り除くこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。取り扱った後、手を洗うこと。暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管 : 施錠して保管すること。日光から遮断し、50 °C を超える温度に暴露しないこと。涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

廃棄 : 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。

シンボル



分類されていない他の危険有害性 : データなし。

3. 組成及び成分情報

- 物質/製剤 : 混合物
 化学名 : 該当せず。
 化学物質を特定する他の方法 : データなし。

成分名	%	CAS 番号	ENCS	ISHL
イソブタン	30 - 60	75-28-5	(2)-4	データなし。
ヘブタン	10 - 30	142-82-5	(2)-7	データなし。

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の補足的な成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

4. 応急措置

応急措置

- 眼に入った場合** : コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。眼に接触した場合、直ちに多量の水で洗浄する。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 皮膚に接触した場合** : 石鹼と水で洗浄する。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合** : もし吸入したら、新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸が停止している場合、人工呼吸を行う。症状が現れたときは医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合** : 嘔吐を誘発させないで下さい。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。症状が現れたときは医師の診断を受ける。
- 応急処置者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。
- 医師への注記事項** : 特定の治療法はない。症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照。

5. 火災時の措置

消化媒体

- 適切** : 火災に応じた消化剤を使用する。
- 不適切** : 認知済みのものは無し。

化学物質に起因する特定の危険有害性 : 極めて引火性の高い液体および蒸気。極めて可燃性/引火性の高いエアゾール。火災の際や加熱された場合、圧力の上昇が起こり、容器が破裂し、その結果爆発が起こるリスクがある。ガスが下部または囲まれた場所に蓄積するか、あるいは相当な距離を移動して発火点まで移動してフラッシュバックを引き起こし、火災を引き起こすことがある。エアゾール容器が破裂すると、火の中から高速で飛び出してくることがある。流出物が下水道に流れ込むと、火災や爆発を引き起こす危険性がある。

有害な熱分解生成物 : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある：
 二酸化炭素
 一酸化炭素

消防士用の特殊保護具 : 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具(SCBA)を装着しなければならない。

備考 : データなし。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。エアゾールが破裂した場合、加圧された内容物および噴射剤が急速に放出されるので注意しなければならない。容器が大量に破裂した場合は、物質の大量流出と同様に除去セクションの指示に従って処理する。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。蒸気やミストを呼吸しない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

6. 漏出時の措置

封じ込めおよび洗浄に関する方法および材料

- 少量流出** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。水で希釈してから拭き取るか、もしくは乾燥した不活性物質で吸い取り、適切な廃棄容器に収容する。火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
- 大量流出** : 危険性がなければ、漏れを止める。漏出区域から容器を移動する。放出現場には風上から近づいてはならない。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、または以下の指示に従う。本製品がこぼれたら、砂、土、パーミキュライト、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。火花防止型の工具および防爆型の装置を使用する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を吸い取った吸収剤は、漏出した製品と同じ危険性を引き起こすことがある。注意：接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 安全に取扱うための注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。圧縮容器：直射日光を避け、50°C以下に保つ。使用後でも穿孔したり焼却してはならない。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。ガスの吸入を避ける。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。熱、火花、炎、その他の発火源から離れた場所で保管ならびに使用する。防爆型の電気装置(換気設備、照明用具、物質取扱い用具)を使用する。火災を発生しない工具を使用すること。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。
- 安全に保管するための注意事項** : 現地法に従って保管する。換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離れて保存する。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

制御パラメータ

成分名	暴露限界値
イソブタン	JSOH (日本, 7/2007). OEL-M: 1200 mg/m ³ 8 時間.
ヘプタン	JSOH (日本, 7/2007). OEL-M: 820 mg/m ³ 8 時間. OEL-M: 200 ppm 8 時間.

- 推奨されるモニター措置** : 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。
- 適切な技術的管理** : 換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。
- 環境暴露管理** : 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げするために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。
- 個人の保護措置**
- 衛生措置** : 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
- 呼吸器の保護具** : リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。
- 目の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

8. 暴露防止及び保護措置



9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態	: 液体。[不透明な。]
色	: ベージュ。
臭い	: 溶剤。
pH	: データなし。
融点	: データなし。
沸点	: データなし。
引火点	: 密閉式: 0°C (32°F) [ペンスキー・マルテンス]
比重	: データなし。
溶解度	: データなし。

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 製品は安定である。通常の保管および使用条件の下では、有害な重合は起こらない。
避けるべき条件	: いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。
混触危険物質	: 次の物質と反応性あるいは危険配合性：酸化性物質。
危険有害性分解物質	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

最も重要な健康効果

健康への急性効果の可能性

吸入した場合	: 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こすおそれがある。
飲み込んだ場合	: 口、喉および胃に対し刺激性がある。
皮膚に接触した場合	: 皮膚刺激。
眼に入った場合	: 強い眼刺激。

健康への慢性効果の可能性

概要	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
吸入した場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚に接触した場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
眼に入った場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発がん性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

吸入した場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる： 気道の刺激 咳
飲み込んだ場合	: 明確なデータは無い。
皮膚	: 有害症状には以下の症状が含まれる： 刺激 発赤

11. 有害性情報

眼 : 有害症状には以下の症状が含まれる:
痛み及び刺激
流涙
発赤

その他の情報 : データなし。

12. 環境影響情報

環境作用 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

水中毒性

製品 / 成分の名称	テスト	種類	暴露時間	結果
ヘプタン	-	魚類	96 時間	急性 LC50 4924000 ug/L
	-	魚類	96 時間	急性 LC50 375000 ug/L

製品 / 成分の名称	水中における半減期	光分解	生物分解性
データなし。			

生物濃縮の可能性

製品 / 成分の名称	LogP _{ow}	BCF	可能性
データなし。			

可動性 : データなし。

その他の悪影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要があります。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。容器は、穴を開けたり、焼却したりしてはならない。

14. 輸送上の注意

国際運輸規定

適用法令	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	UN1950	エアロゾル、燃焼性(それぞれ1Lは超えていない)	2.1	-		-
IATA クラス	UN1950	エアロゾル、燃焼性(それぞれ1Lは超えていない)	2.1	-		-

PG* : パッキンググループ

15. 適用法令

物質または混合物の分類 : 可燃性／引火性エアゾール - 区分 1

皮膚腐食性／刺激性 - 区分 2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 - 区分 2B
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露) 気道 - 区分 2

GHSラベル要素

注意喚起語 : 危険

15. 適用法令

危険有害性情報 : 極めて可燃性／引火性の高いエアゾール。
皮膚刺激。
眼刺激。
吸入すると臓器障害を引き起こすおそれ。(気道)

16. その他の情報

ヒストリ

発行日 : 09/30/2008
バージョン : 1
作成者 : Atrion Regulatory Services, Inc.
参照 : Standard : JIS Z7250 (日本)

読者への注意事項

危険有害性の評価は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には、未知の危険有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。